

本特集号では、日本中国文化交流協会創立以来五十年の歴史を、これまで当協会が実施してきた主な交流を中心に紹介する。

# 1956年

中華人民共和国は建国後七年、順調な歩みを見せていた。特に、外交面では、一九五四年のジュネーブ会議、五年のバンドン会議に周恩来総理が出席、国際連帯を重視

した姿勢は世界各国から清新な印象をもって迎えられた。中国の対外民間交流の窓口として、五四年に中国人民対外文化協会（現・中国人民対外友好協会）が設立された。日中間に国交はなかったが、日本でも五〇年に日中友好協会が、五四年に日本国際貿易促進協会が相次いで設立された。第一次日中民間貿易協定の締結、中国紅十字会代表団の来日、日本学術文化視察団や市川猿之助歌舞伎公

演団の訪中など、民間の交流も始まっていた。五五年に自由民主党が発足、いわゆる「五五年体制」がスタート、鳩山一郎内閣が対外融和政策をとり、対ソ国交回復が実現し中国との国交回復への期待が高まった年であった。周恩来総理をはじめとする中国首脳



一九五五年十一月二十七日、北京で、日本中国文化交流協会創立の基礎となった「日中文化交流に関する申し合わせ」に署名する千田是也氏。翌五六年三月に日中文化交流協会が創立された



1956年3月23日、日本中国文化交流協会が創立 中華人民共和国が成立して七年目の年に、東京で創立総会が開かれた。設立の趣旨は、「文学・芸術、学術、報道、スポーツなど、広い分野にわたる交流を推進し、両国人民の友好と文化交流を促進すること」であった。創立総会であいさつする中島健蔵理事長(壇上右)。座長は星島二郎氏(壇上左) —東京・丸の内 日本工業倶楽部

は、日本の広範な文化界を結集した組織の必要性を願っていた。前年十一月に片山哲元首相、演出家の千田是也氏が北京を訪問した際に、日中文化交流協会設立についての「申し合わせ」に調印、中国側は趙毅敏、陽翰笙、老舍、歐陽予倩、馬思聰、劉開渠、蔡楚生、戴愛蓮、陳忠経の諸氏が署名した。千田氏は帰国後、フランス文学者で評論家の中島健蔵氏ら文化界人士に働きかけ、白土吾夫氏を中心に当協会の設立準備を進めた。

五六年三月二十三日、日中文化交流協会の創立総会が東京・丸の内の日本文学倶楽部で開かれ、片山哲氏を会長、中島健蔵氏を理事長に選出した。創立時の会員は約八十名。事務局は新橋にある役員事務所を借り、半年後には、篤志家の好意により、丸の内三菱仲十二号館の一室に移った。当時の役員には、青野季吉、東龍太郎、伊藤武雄、牛原虚彦、梅原龍三郎、海野晋吉、川崎秀二、川端康成、茅誠司、北村徳太郎、木村伊兵衛、久保田万太郎、佐藤春夫、鈴木一雄、千田是也、武田泰淳、竹中勝男、谷崎潤一郎、南原繁、花柳寿輔、福田豊四郎、豊道慶中、星島二郎、堀内敬三、松村謙三、山田耕筈、山本健吉、渡辺義雄の諸氏が就任していた。

## 五六年の主な交流

◎4月 第二十三回世界卓球選手権大会参加中国卓球代表団（榮高棠団長）が来日。鳩山首相は官邸に一行を招きガーデンパーティーを開催。当協会は歓迎実行委員会に参加し協力。



谷崎潤一郎顧問(左二)は、松子夫人(右二)をともな  
って箱根を訪問し、梅蘭芳氏(左一)、歐陽予倩氏(右  
一)と31年ぶりの再会を果たした

——1956年7月5日 箱根ホテル 中島健蔵氏撮影

日中文化交流に関する申し合わせ調印一周年記  
念の催しで、「中国の美術」と題する講演を行な  
う哲学者の谷川徹三氏 一周年記念の催しは、  
当協会と毎日新聞社の主催で、記念講演のほ  
か、映画の上映などが行なわれた  
——一九五六年十一月二十八日 東京・日比谷第一生命ホール



周恩来総理、日本作家代表团と会見 日中文化交流  
協会が派遣する初めての作家代表团。周恩来総理(右  
二)の招宴に出席した青野季吉(左一)、宇野浩二(左  
二)、久保田万太郎(右一)の諸氏。久保田氏はその  
時の印象を「周総理小春の眉の濃かりけり」という  
俳句に詠んでいる

——1956年11月11日 北京 和平賓館



京劇の名優、梅蘭芳氏が来日 新中国成立後初め  
て、中国京劇代表团が来日した。日中文化交流協  
会では、久保田万太郎顧問を委員長とする歓迎実  
行委員会を設けた。主演の梅蘭芳氏に花束を贈る  
俳優の水谷八重子、山本安英両氏

——1956年5月 東京・歌舞伎座

- ◎5月 中国京劇代表团歓迎実行委員  
会(委員長・久保田万太郎氏、事務局  
長・倉林誠一郎氏)を設置。朝日新聞  
社に協力し、戦後初の中国京劇代表团  
(梅蘭芳团长、歐陽予倩氏ら)を歓迎。
  - ◎6月 木下恵介、杉村春子、尾崎宏  
次、乙羽信子、芥川也寸志らの諸氏が  
北京での日本映画週間に参加。
  - ◎8月 来日した曹禺氏(劇作家)を  
囲む新劇関係者懇談会(丸の内・レス  
トランポールスター)に戌井市郎、内  
村直也、尾崎宏次、倉林誠一郎、小山  
裕士、杉村春子、千田是也、滝沢修、  
土方与志、戸板康二、村山知義の諸氏  
らが参加。曹禺氏を囲む文学者懇談会  
(東京グランドホテル)に青野季吉、中  
島健蔵、堀田善衛、本多秋五、山本健  
吉の諸氏らが参加。
  - ◎9月 日中文化人中国訪問団(田邊  
尚雄团长ら二十一名)訪中。
  - ◎11月 日本作家代表团(青野季吉、  
久保田万太郎、宇野浩二、堺誠一郎の諸  
氏ら十一名)訪中。中国人民対外文化  
協会招請。北京で周恩来総理と会見。
- 事務所を用意し、財源を確保し、準備万端整えての創立ではなかった。そのとき、この団体が五十年保つと思った人はいなかった。保たないと思った人もいなかった。そんな通俗なことは考えず、ただ理想に燃えた人たちが創業したのである。茫々五十年、多くの先達の、報いられることを期待しない献身は、いつまでも光芒を放っている。(九十九)